

環境学習コーディネート実施概要（Web 掲載）

依頼No	2	事例No	1	依頼者	名古屋市立守山中学校	実施場所	守山中学校 体育館
実施対象	中学1年生～3年生(22クラス 745名)(1年生 238名、2年生 255名、3年生 252名)						
実施日時	令和6年6月10日(月) 13時00分～13時45分						
テーマ	学校施設の脱炭素化について考える						

●依頼内容

学校施設の脱炭素化について考える環境講座の講師を紹介してほしい。

●講師：原 理史 氏（中部地方 ESD 活動支援センター、中部大学国際 ESD-SDGs センター）

原氏は、EPO 中部および中部大学中部高等学術研究所に所属するとともに、中部地方 ESD 活動支援センター担当責任者、名古屋産業大学大学院非常勤講師などを務めている。これまで、子どもから大人まで様々な年齢層を対象に、ESD をはじめとする環境問題に関わる各種講演会の実績がある。

●授業の内容

講義	講師の自己紹介の後、「気候変動と脱炭素」をテーマにパワーポイントを使って授業が行われた。はじめに、地球温暖化の原因やその対策に関わるクイズが数問出された。その後、クイズの解説も兼ねて、気候変動や地球温暖化の原因である CO2 の排出量の実態と CO2 の削減（脱炭素）に向けた世界と日本の取組について説明が行われた。その上で、守山中学校では電気やガスを使うことでどれくらいの CO2 を出しているのか、また学校の建物を ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）化することでどれくらいの CO2 が削減できるのか、さらに、個人や家庭でできる CO2 排出量の削減方法にはどのようなものがあるのかについて、具体的な数字やグラフを示しながら説明が行われた。	35 分
課題の説明	「気候変動と脱炭素」の講義をふまえて、今後、守山中学校の生徒それぞれが CO2 削減に取り組んでいくための「守山中学校脱炭素作戦計画書」の作成が課題として出され、そのまとめ方について説明が行われた。その後、生徒は各教室に移動し、グループに分かれて「守山中学校脱炭素作戦計画書」の作成に取り組んだ。	10 分

●授業の様子

授業は、体育館に1年生～3年生までの22クラス700人を超える生徒が一堂に会して行われた。体育館という広い場所に大人数が集まった授業であったが、生徒たちは静かに集中して講師の話聞いていた。授業のはじめに行われたクイズでは、腕で大きく○や×を作って回答していた。気候変動問題や脱炭素の必要性を学んだ後、守山中学校の電気やガスの使用量とそれによって出る CO2 の量が示されると、生徒たちは興味深そうに話を聞いていた。体育館での授業の後、教室に移動して「守山中学校脱炭素作戦計画書」を作成することになっており、自分や家族でできる脱炭素の取組にどんなものがあるのかについて真剣に話を聞いていた。

気候変動や脱炭素の取組の必要性について学んだ。



クイズには腕で大きく○や×を作って答えた。

